


1 「フジノゲート」H2作:高橋 政行



芸術のまちFUJINOを訪れる人々を迎え、毎路に逢く人々を見送る芸術への門。
藤野アートを巡る旅は、ここから始まり、ここへ帰り着く。人々の心の中に芸術の灯が輝き続けることを夢見ながら、ゲートは静かに佇む。
※藤野観光案内所入り口に設置されています

2 「藤波」H2作:興盛 巖



深い崖の足元、目にするたび、日常の中で忘れ去られた情景や色彩が、今も色褪せることなく、人々をやさしく迎えつけている。
※H2全扉リニューアルしました

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

3 「瀬(とろ)」H1作:深谷 泰正



この作品は、植物の種が発芽する時の、内から外へ発せられる自然の強い生命力を表現している。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

4 「パッファロー」S63作:ジム・ドラン



元々しく大地を駆け回るパッファローの雄々しい姿、生命の躍動感を、彫影豊かな彫形で表現した作品である。
※藤野観光案内所南西角に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

5 「記憶容量一水より、台地より」H3作:岡本 敦生



これは、置かれる場所からの彫造ではなく、作者の内面思考から生まれた作品である。石という素材の個性と、作者の関わりによって展開され、石の意外な表情の表現を意図している。周境の中で、これら作品がどのように呼吸を始めるかを見届けたい。
※長良大橋のたもと両端それぞれに設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

6 「両側の丘の斜面」H2作:三梨 伸



変化に富む自然の中に異質な造形を持ち込むことにより、空間の緊張感、相対性、小宇宙を醸成する。

7 「COSMOS」H2作:村上 正江



彼女が捉める輪は、内に秘めた愛を持って太古へはびかない、遠く宇宙へ届く。
彼女の思いは悠久の風に乗る、無限の世界へと続いている。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

8 「限定と無限定」H3作:古郷 秀一



周辺環境を直接作品に取り込むため、細い鉄筋を幾重にも重ねて、半透明の空間を作っている。これは、彫影と空間の限定的な枠を感じ、見え隠れする新たな光景を提示している。作品周辺の地形をコンクリートの床の中に、自然への呼びかけに込めている。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

9 「射影子午線」S63作:加藤 義次



箱内彫刻パイプから1988年10月の天空を望めば、火星が見えるように設置されている。窓のうららかな日差しの中から、あるいは夜明けのキラキラと輝く折線、真赤に燃える紅葉の中から、そして静寂の雲に眠る。四季周境の中で、これら作品がどのように呼吸を始めるかを見届けたい。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

10 「山の目」S63作:高橋 政行



見慣れた山が突然目を覚まし、裏返る下界にメッセージを送る。窓のうららかな日差しの中から、あるいは夜明けのキラキラと輝く折線、真赤に燃える紅葉の中から、そして静寂の雲に眠る。四季周境の中で、これら作品がどのように呼吸を始めるかを見届けたい。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

11 「森の守護神」H3作:佐光 庸行



藤野の自然を大胆に切り取り、石の素材でランダムに、しかもゾグミニアに表現している。彫影の存在感あふれる姿を想像させ、また、DNA(染色体)の遺伝子をも連想させるこの作品は、過去から未来へと、自然のたくましさ語り伝える。

12 「回帰する球体」H1作:中瀬 順志



どこからか流れてきてここに落ち着き、周囲の自然に調律人でもしたたかな顔。
新しい命が吹き出していくと自然と同化していく様子も表現した作品。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

13 「伏える」H1作:植草 永生



人間社会の営みも、自然界の営みにも似て、変化する環境と密接な関わりを持っている。「伏える」は凝縮された万物の叫びであり、自己への回帰でもある。呼吸するということを感じさせてくれる。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

14 「踊り合う石たち」H2作:杉浦 康哉



実は同じ形に作られた8個の作品。置き方を考えることにより、それぞれに個性と存在感が生まれ、共存するという実感を大胆に表現した作品は、相対し語り合っている。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

15 「雑典薔薇」H2作:加藤 義次



自然との共鳴があり、光の投影がある。時間という連続性によって、流らなず、さりとて遅れもせず、常に連続的な変化の知性を秘めた作品である。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

16 「FLORA-FAUNA」H2作:原 智



巨大な昆虫のような作品を置くことにより、それまでの静寂な空気感破れ、また新たな環境を始める。静かに死んで行く時間を空気に、永続的な刺激と振動を与えた作品。

17 「庵(いおり)」H3作:斎藤 史門



石の中に、あたかも何十年も前から存在しているかのような植物らしきもの、かざり、持ち来て、草木に覆われて場となる。人の生活と歴史、過ぎ去った時間を表現した作品。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

18 「左「未来への運動」右「季節の質」」H3作:中瀬 順志



自然と併れたらすばらしいパワーを表現した作品。
※この作品は「シェイター」学術団地内に設置されています。許可無く立ち入ることはご遠慮下さい。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

19 「森の記念碑」H2作:池田 徹



鉄と石を使って、自然との調和と緊張感を演出。空間を切り取ったり、付け足したりすることにより、大自然を凝縮したり拡張したり、そんな小宇宙を醸成している。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

20 「芽輪」H2作:田辺 光彰



大自然の醍醐味は発芽の瞬間。この作品は、植物が芽を出す時の環まいたエネルギーを表現している。その形はエリの発芽から発想し、光を求めるかのように、南を指して傾いている。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

21 「雨」H8作::フェリット・オズエン



芸術の道のゆるやかな坂道に、窓から雨を眺める「Rain on my own window」がある。窓の先には、大空に落ち出した雨雲が、大地に雨を降らせる情景。天の恵みを、眼前の自然と共に感じさせてくれる作品。
※倉敷神社裏手に設置されています

22 「あなたと…明日の空の色について」H3作:武荒 信樹



森林の広がる斜面に、絶妙なバランスで構成された幾何学的な作品。音響を揺るまぬ空や、風に吹かれてはびくはびく音が響き渡る。山がうつろい、自然を見出す。あるまじき自然と次元を超えた自然が新たな感動を、観る者に与えてくれる。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

23 「空を待つ柱」H3作:土屋 昌義



ステンレス鋼を組み合わせて造られた柱。これまでの空間とは異なる趣意を醸成することで、自然との調和を固めた作品である。陽光を反射し、板と板の間が通り過ぎることで、自然と共鳴する音響効果ももたらしている。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

24 「カリブー」S63作:ジム・ドラン



牛舎に溶けたシカ科の動物カリブー。自然に溶け込んで、今にも威厳にさうな姿、その見事な角に秘められた強さは、命の輝きを感じさせてくれる。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

25 「トライアングル・ウィンド・ソング」H2作:鈴木 明



風の音、木の音、土の音。時には風の音が鉄に伝わり、また光や影により定まれる。人と環境が共鳴したりリズムを表現した作品である。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

26 「過去からのひびき(エコー)」S63作:アロイス・ラング



都市と自然、2つのオブジェからなる作品。人間社会が進化するには何が自然に受け入れられ、光への道は送られていく。しかし自然の中心に人間が居るような風景が残されている限り、人間は其中への可能性を残さなくてはならない。この作品は、昔の姿を残そうとする自然を表現している。
※倉敷神社裏手に設置されています

27 「緑のラブレター」H1作:高橋 政行



藤野町野外環境彫刻を代表する作品。インパクトのある姿から多くのファンを持ち、メディアにもたびたび登場している。自然の素晴らしさ、環境の大切さを、山がうたうように強く訴えかけ、人々の心の扉を「緑」を響かせる。心と心をつなぐ絆を。
※中央自動車道、藤野パーキングエリア、及藤野町から見る事ができます。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

28 「カナダ屋」S63作:ジム・ドラン



大自然の中を、力強く飛翔するカナダ屋の姿。山と風を感じた瞬間にカナダを感じ、旅人ワイリーングを振る人々へ伝えてくれる。
※倉敷神社裏手に設置されています

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

「芸術の道」案内板



豊かな自然に育まれた藤野の文化、芸術活動への出会いを案内します。芸術の道に沿って野外環境アート作品のある場所に設置されています。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

藤野園芸ランド遊歩道



森林浴の森日本100選にも選ばれた広葉樹の中にある「藤野園芸ランド」は、藤野芸術の道の里で展開しています。芸術鑑賞とセットでメイズイオン園内の緑林の中を歩くコースはおすすです。

昭和の終わりの頃から平成の初めにかけて、当時の藤野町のみならず、くろとこアーティストたちもふるさと芸術村構想。この構想の中で、全倉敷地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。そんな想いから、このパンフレットを創りました。藤野の散策が、ぜひアーティスト巡りをお楽しみください。

FUJINO ART SANCTUARY

野外環境アート作品ガイドとコースの案内

芸術の道

観光案内所「ふじのね」
 ここが「ふじの」の根っこになる。ここから「ふじの」の景色が広がる。アート情報パンフレットもたくさんあります。藤野のアート巡りは、ぜひここから！在任アーティストの作品は上作品も充実しています！
 〈お問い合わせ〉
 ふじのね
 TEL 042-687-5581
 ■営業時間 / 8:30~17:00
 ■年中無休(年末年始除く)

藤野芸術の家
 泊まってつくり方でアートする、芸術の拠点。工場の創作からホテルでのコンサート、アウトドアでのキャンプまで楽しみ方はいろいろ。自然にあふれた藤野ならではのユニークなアート体験を満喫できます。
 〈お問い合わせ〉
 藤野芸術の家
 TEL 042-689-3030
 ■開館時間 / 9:00~21:00
 ■定休日 / 毎週火曜及び年末年始
 ※時間等詳しくは問い合わせ下さい。

ふじのアートヴィレッジ
 藤野ふるさと芸術村を背景にこの地に着せられた「人工水」「森」「里山」「農林業」「芸術」などをさらに発展させることを目的にオープンしたアートのスポット。小さな移動式ミニギャラリー9棟では、地元在住アーティストたちの作品等が展示販売されています。
 〈お問い合わせ〉
 ふじのアートヴィレッジ
 TEL 090-5564-6776
 ■営業時間 / 11:00~17:00
 ■営業日 / 土・日・祝日のみオープン

野山の食堂
 〈お問い合わせ〉
 TEL 090-3791-0999
 ■営業日 / 金・土・日 藤平ビザ / 月~水 笑花食堂

野外彫刻アプリ「fujinoART」もご利用ください。

 GPS機能付なので、現在地周辺の作品探しができます。日本語、英語表記の切り替えも可能。散策のガイドにも是非ご利用ください。

ACCESS
 ●電車をご利用の場合
 JR新藤野駅より八王子経由で65分
 JR横浜線より八王子経由で80分
 ●お車をご利用の場合
 中央自動車道相模湖インターより5分
 直久速相模湖インターより40分、高尾山インターより25分



●芸術の道 おすすめ散策コース●
 1時間コース(180分)
 JR藤野駅→日連大橋→秋川橋
 →芸術の道入口(区「岡崎の丘の斜面」が目印)
 →前戸沢橋→葛原神社→名倉峠→市道
 →名倉グラウンド→弁天橋→JR藤野駅
 ●お手軽コース(75分)
 JR藤野駅→日連大橋→秋川橋→名倉グラウンド
 →弁天橋→JR藤野駅

藤野ふるさと芸術村 メッセージ事業推進委員会
 ●藤野まちづくりセンター●
 〒232-5132 神奈川県相模原市緑区小沢2000番地
 TEL042-687-2119 FAX042-687-4347
 E-mail: fujino-cen@city.sagamihara.nagawa.jp



お土産 食事処

芸術の道

散策路コース



藤野園芸ランド
 名倉地区には地元農家による観光農園があちこちにあり。栗の刈りや芋掘りは、旅を一層豊かにしてくれます。入園料はありませんが、アート巡りの途中でお気軽に農家を訪ね、山里ならではの楽しさをぜひ体験して下さい。
 〈お問い合わせ・お申し込み〉
 藤野園芸ランド運営協議会(倉田)
 TEL 090-1888-1206

アート巡りを楽しんだら、ゆっくり温泉はいかがですか？



藤野やまなみ温泉
 露天風呂からの開放的な眺めと広々として快適な施設が人気の温泉施設。全車庫を備えた休憩所もあります。
 〈お問い合わせ〉
 TEL 042-686-8073
 ■営業時間 / 10:00~21:00
 ■休館日 / 水曜日(祝日・年末年始の場合は営業)
 ※3時間利用700円 1日利用1,000円